

Cに宛てた入国管理総局・捜査取締局長レターのコピーを所持することを奨励している。
(2) 6月6日付で海外邦人数調査統計が発表された。前年比+3.2%増 18,463人(世界第14位)。日系企業数 前年比-13.9% 1,697社(第6位)となっている。この数値については、当館および外務省のホームページでも発表されている。
(3) 在外選挙は6月23日～7月4日9時半～17時まで大使館2階講堂にて行われる。

4 最近の医療事情等

大気汚染について、在インドネシア・アメリカ大使館においても敷地内でAQIと呼ばれる大気汚染の指標のモニタリングを開始した。インターネット上にて『アジアの大気汚染』で検索すると関連情報の閲覧が可能。同情報によれば、ジャカルタの大気汚染は極めて深刻。

5 質疑応答、各社(団体)からの報告等

(報告)

6月12日に出向社員が家族3名でクマン・リッポーモールにてエスカレーターを利用中に、3人のインドネシア人が家族の間に強引に割り込んできて、出向者がつけていたウエストポーチから現金、カード類、KITASを盗まれる事案が発生した。

(回答) 大使館

エスカレーターは狙われる場所のひとつであり、別の手口としてはスリグループが前後を挟み、エスカレーター降り口の直前で、前方の者がつまづくふりをして、被害者が立ち止まった直後に後方の仲間が将棋倒しで被害者に体を押しつけ、被害者のポケットやウエストポーチ等から財布を抜きとるという手口もある。また、買い物中目を離した隙にカートに入れていた鞆を盗まれるような被害もあるため、ご注意ください。

(報告)

5月31日夜に現地採用日本人社員のアパートにイミグレ・警察等の査察が入った。パスポート、KITASを提示した。名刺の提示も求められたが、社員証(役職名等の記載なし)で代用。金品などの要求はなかった。

(報告)

新ターミナルについて6月20日(月)より第3ターミナルアルティメットよりガルーダ国内線3路線(ソロ、スマラン、ジョグジャカルタ)が運用開始するとの情報に接している。国際線はまだ未定だが、日本からの便が離発着する第2ターミナルからのバスの増発の有無についての情報がないため混乱が予想される。空港ご利用の際は接続時間を含めてご注意ください。

(質問)

ブロックMでの査察は、現在もまだ行なわれているのか。また他の地区でも行なわれているところがあれば共有願いたい。

(回答) 大使館

日本人がターゲットになっているのではなく、外国人全般が査察の対象となっているようだ。ブロックM以外の地域での査察は今のところ報告を受けていない。

(報告)

家族、駐在事務所での打ち合わせで入国する際も依然としてVOAを要求された。具体的な事案としては、5月31日16時頃 当社の出張者が、駐在事務所でのミーティン

グのために入国の際、イミグレの担当官（Erwan）よりビザを要求された。威圧的だったのでVOAにて入国。領収書は受領済み。

（報告）

弊社駐在員の住むクマヨランバルのサービスアパートに5月31日午前0時に警察（男性4名、女性1名）の査察が入った。飲酒の有無をチェックされ、パスポート、KITASの写真を撮られた。いくつか質問され、名刺を渡したが、金品などの要求はなかった。

（報告）

出向社員が5月9日21時頃、ガンビル駅付近で取引先と会食中に車上荒しの被害にあった。駐在員が会食中に、運転手が自分の食事のために1.5キロほど離れた場所に移動して車を離れた際に、車内に置いていたパスポート、KITAS、現金、カード類を盗まれた。運転手は容疑者として警察より事情聴取を受けたが、犯行は認めていない。

（報告）

6月4日0時～2時の間にブロックMの飲食店内へイミグレ（入管局）の査察が入り、パスポートを所持していなかった者30～40名が拘束された。その際、店の表には報道カメラマンも集まっていた。家族や知人が後からパスポートを持って来た者は、帰宅を許可されたが、パスポートは没収され、後日呼び出された。詳細に関しては、パスポート不所持、KITAS所持していた者は2500万ルピアを請求され交渉の結果、2000万ルピアを支払った。パスポート不所持で観光ビザのみを所持していた者は2億ルピアを請求され、交渉の結果1億3000万ルピアを支払った。またその際、査察官が「今日の目標は50億ルピア」と話しており、内部でのノルマのようなものが存在していると考えられる。

現在、社内では、JJCの入国管理総局・捜査取締局長レターのコピー、パスポートのコピー、KITAS原本の所持を徹底しているが、今回の事例ではKITAS原本は所持していたが、パスポート原本不所持の場合にも2000万ルピア請求されている。このような被害は担当官の名前や領収書を控えて、大使館へ報告すれば返金されるのだろうか。過去の事例等はあるか教えてほしい。

（回答）大使館

先週、バリでの領事当局間協議で当方より、日本人ビジネスマンが直面している問題につき適切な対応を求めた際に、査証に関するトラブル等に関しては、先方からは大使館経由で詳細な情報を提供して欲しいとの要請があった。指示が末端の職員まで十分に行き渡っていない点もあり得ることは先方も認めている。

また、ラマダンは特殊なシーズンであり、インドネシア国民の神経に障るような事柄に関して取締りを行っており、より過激な団体からの攻撃から守っているという言い分もあるようだ。我々は、インドネシアの国民感情も念頭において行動して頂くことが肝要と考える。

今回の情報提供のあった様々な事案は、直ちに整理して具体的に当局へ伝えたいと考えているので、ご協力願いたい。

（報告）

6月4日午前0時頃 ブロックMのTOP GUN前の路上にて英語講師のイギリス人が、KITAS原本を所持していなかった為にイミグレ査察官により連行され、友人に原本を届けてもらい釈放された。その後、事情聴取のため2度イミグレを訪ねるが旅券は返却されなかった。現金10 jutaを持って話に行っても返却されないため、政府の顔役である友人の父親へ委任状を託し、なんとか解決できそうだと報告が入っている。

(報告) JJC

JJC 医療医療相談室は、雇用の問題を抱えており当分の間休診とする。

(報告)

空港のイミグレにおいて、ITAS オンライン (A4 カラーの証明書) の所持が必要となる。これは、パスポートのスタンプに滞在期限の記載がないため、ITAS から滞在期限をチェックする為である。

(報告) 大使館

報告にあった、取締りの強化に関わる被害については、直ちに入管局に確認し、フォローアップしていきたい。先週の領事当局間協議では、インドネシア側からは外務省、警察、法務人権省など約30名が出席していたので、日本からの投資促進のためには日本人居住者やビジネスマンの不自由な面を改善していくことが重要なことを具体例を挙げながら説明し、先方の理解を深めることができた。末端まで改善されるには時間がかかるが、我々からは当局に逐一訴えていきたい。

次回の海外邦人安全対策連絡協議会は、2015年7月12日(火)午前11時から